

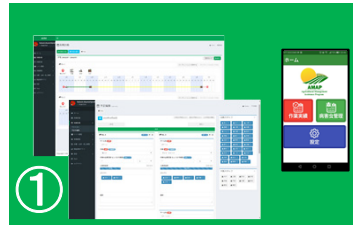
実証課題名：大規模施設園芸の生産性を飛躍的に向上させるスマート技術体系の実装
 経営概要：3 ha（パプリカ） うち実証面積：3 ha

導入技術

- ①生産管理支援システム
- ②無人搬送システム

目標

- 生産性（売上/費用）を15%向上させる。
- ・生産活動の効率化により、費用の5%低減
 - ・適切な生産管理の実施により、売上の10%向上



1 初年度の実証成果の概要

初年度は、生産性が14%向上し、目標の15%に極めて近い数字を得ることができた。作業の適正化による収量の24%増大が得られたことが大きな要因である。収量増は、作業量の増大を引き起こすものの、生産管理支援システムや無人搬送システムの導入のための準備など、生産管理体制の改善により、費用の増大は11%におさえこむことができた。

2 導入技術の効果（見込み）

生産管理支援システム



作業スピード・病虫害把握	1時間/日
収量の集計	2時間/日
生育計測	2時間/週
出勤希望	2時間/週
設備点検	1～2時間/週

生産管理支援システムの導入で
1時間/週 程度に

無人搬送システム



収穫物搬送 3～6時間/日

無人搬送システムの導入で
ほぼ 0時間に

3 今後の課題・展望

- ・生産管理支援システムは、令和2年度は年間を通じた試験運用を実施中。愛彩ファーム九重の方々のご意見を取り入れ、事業終了後に他の生産者に向けてリリースできるレベルに品質を高めつつある。
- ・無人搬送システムの運用に際し、安全面での検討をすると共に、収穫時の収穫物運搬に投入し、関連データを取得する予定。
- ・コロナ渦や令和2年7月豪雨の影響によりやや遅れが生じてはいる。しかし、事業年度終了までには実証内容を実現することを目指している。